

名人の時間

「冬夜読書」

り気温も下がってき
12月になり雪が降

ました。今年は暖冬傾向だという事で雪が少なくピヤシリスキー場のオープンが延期されています。

が、それでも外套を通り抜けるほどの冷氣を名寄では感じていると思います。

大学では、年明けにスキーの授業があり、道内外から進学してくる学生に人気の授業となっています。一方この時期、卒業論文の締め切りや年始から始まる資格試験の勉強で各学科の4年生は朝から晩まで自習室や図書館

で勉強しているのれ、街中では除雪され続ける雪はスノースポーツツーリズムの重要な資源になっています。

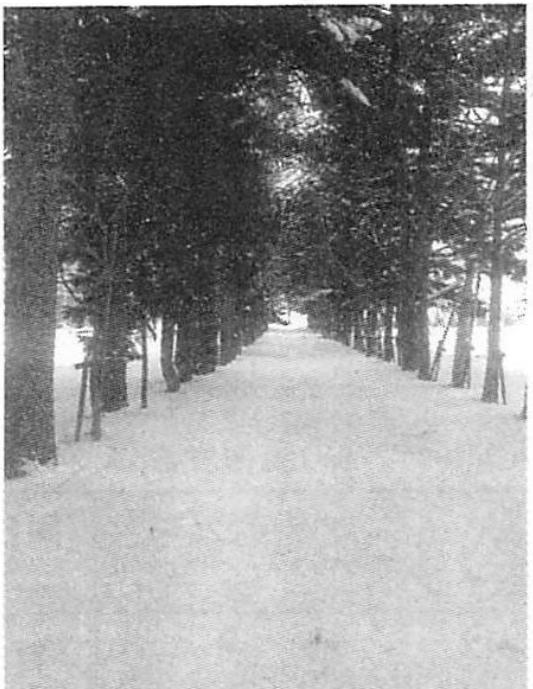
コラムの題名である「冬夜読書」は「とくやしょをよむ」と読みます。江戸時代の学者である菅茶山（かんぢやさん）の漢詩の題名で、本文の書き下し文は「雪は山堂を擁して樹影深し檐鈴動かず夜

うそくを見るとその炎が昔の人の心を映し出してくれるみたいたという内容です。詩の表現から茶に住んでいたようなので少し降った雪を誇張して詩を書いていた様です。

実際は備後国安那郡（現在の広島県付近）に住んでいたようなら、過去や未来に思本を読み勉強しながら、過去や未来に思いを馳せるのもいいかもしれません。

名寄の冬休みは、日中にはウインタースポーツを楽しん

収めてと思う
の青灯
の心」となつ
ています。
しんしんと
雪の降る山の
住まいで書物
を読んで考え
事をしている
時にふと、ろ



で、茶山が想像した
雪が降り積もる夜は
本を読み勉強しながら、過去や未来に思
いを馳せるのもいい
かもしれません。
栄養学科助教

丸山洋介